

# 2024 年度 自己評価結果

関東学院六浦こども園

## 1. 関東学院六浦こども園の教育と保育

### ◎ 教育・保育理念

神さまに創られた大切な一人として愛されていることを知り、人を信じる力を育み、他者と共に生きていく力を養います。

### ◎ 教育・保育目標

・主体性 ・思いやりの心 ・創造性

### ◎ 教育・保育方針

- ・キリスト教の精神、即ち学校の校訓である「人になれ奉仕せよ」の精神をもって、毎日の保育をしていきます。
- ・食事、睡眠、排泄、清潔などの基本的な生活を大切に、一人ひとりに丁寧にかかわり、ありのままの姿を受けとめる中で基本的信頼感を育みます。
- ・喜怒哀楽をしっかりと経験する中で自分の思いを表し、他者の思いに気づきながら自分づくりを積み重ねていけるよう子どもの心に寄り添った援助をしていきます。
- ・子どもたちの好奇心や興味をかきたて、生活や遊びが豊かに広がり学びが深まるような環境構成や援助のあり方に配慮し、異年齢のかかわりを積極的に行います。

## 2. 本年度の重点事業目標及び計画

### (ア) 実践から学びを深め、保育・教育の質の向上につなげる

- 園内研修の内容を本園の先生たちが企画提案し、研修を進めていきます。外部講師には、年2回研修に加わっていただき、更に学びが深まるように導いていただきます。そして先生たちが主体的に自分の保育の課題を見出し、それに取り組むような保育者集団を目指していきます。キリスト教保育の学びは継続してバイブルクラスや職員会議の中で語りあいを深めていきます。また、先生たちと祈り合うことを大切にしていきます。
- 他園の見学研修は先生たちが体験的に学び、自分の保育・教育に活かすので、見学を増やして引き続き行っています。
- 保育・教育をしていく中で、先生たち自身が見つけた課題や取り組みを保育学会や幼児教育実践学会他で発表していきます。乳児、幼児の担当を問わず、研究発表に取り組める体制作りを検討していきます。
- ホームページをリニューアルし、外部や地域の方々に本園の保育・教育が分かりやすく発信できるようにまた、昨年度から始めた地域の子育て支援や地域の方の園行事参加の取り組みを更に工夫し充実していきます。

### (イ) 自然、木育を取り込んだ保育、教育の推進

- 保育ナチュラリストや木育インストラクターの資格取得の講座を取得していない先生たちに積極的に受講してもらい、すでに資格を取得している先生たちにはフォローアップ講座を受講して学びを深め実践に活かしてもらいます。日々の生活の中で子どもたちが自然や素材に触れていく機会を増やし、自分たちの遊びに自然を取り入れていきやすい環境作りをしていきます。
- 自然・木育の専門家を招いて子どもたちと自然体験を行うことや園の自然環境がより良くなるための学びを深めていきます。

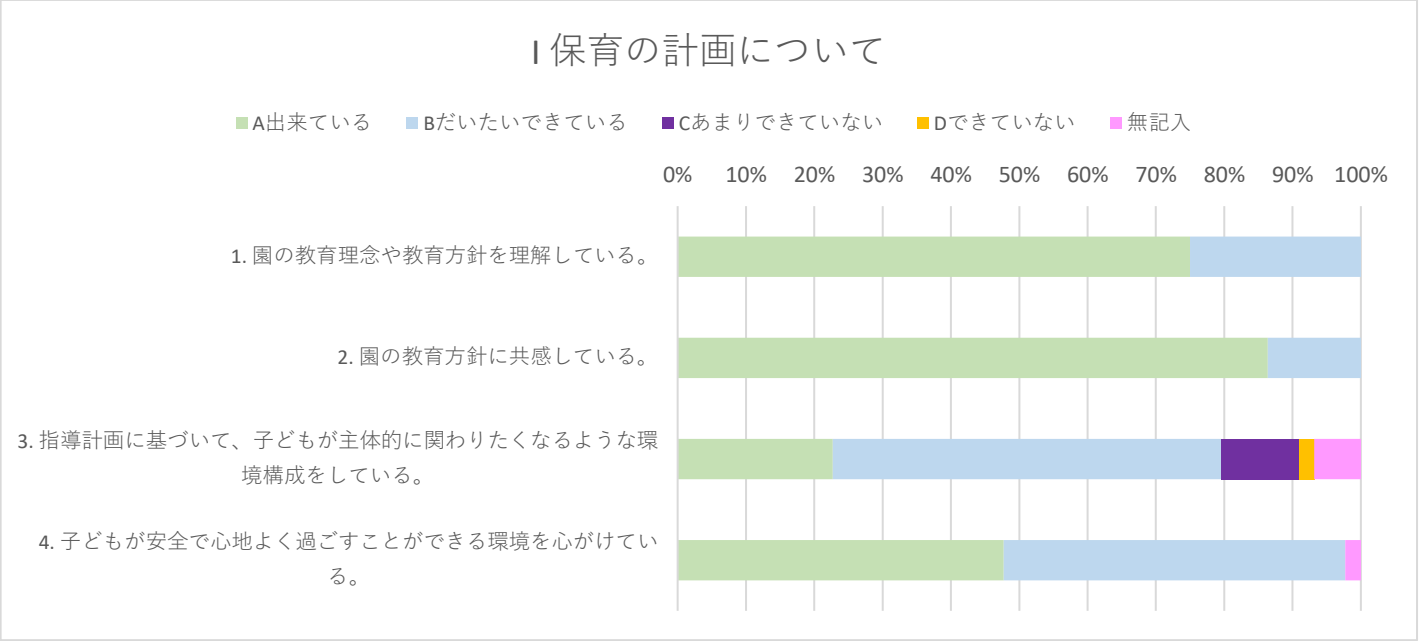
### (ウ) 主体性と創造性が育まれる園庭と室内環境の構築

- 2023年度は、今ある環境について先生たちと話し合い、どのような環境に変化させていくのかを検討してきました。今年度もお父さんの会の保護者の方たちと先生たちが協働して新しい園庭環境を構築していきたいと考えています。
- 園庭アトリエ、木工スペースや畑、砂場、ビオトープなど今ある環境をリニューアルして充実させ、樹木を活かした木育エリアや焚き火場、水場など、子どもたちの活動を支える場を製作しようと考えています。子どもたちが環境からの発信を受け取り、自ら動き出したいくなるような場づくりをしていきます。また、園庭の緑化も進めていき、遊び場の仕切りや生き物のすみかができるようにします。
- 室内環境も同じく、子どもの興味関心を満たし様々な活動に対応できる環境として、保育室や2階のアトリエ、部屋前の協働スペースなどを子どもの育ちの節目に応じて変化させ、探求活動を支えています。飼育や栽培を子どもたちと気軽にできるように計画をしていきます。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

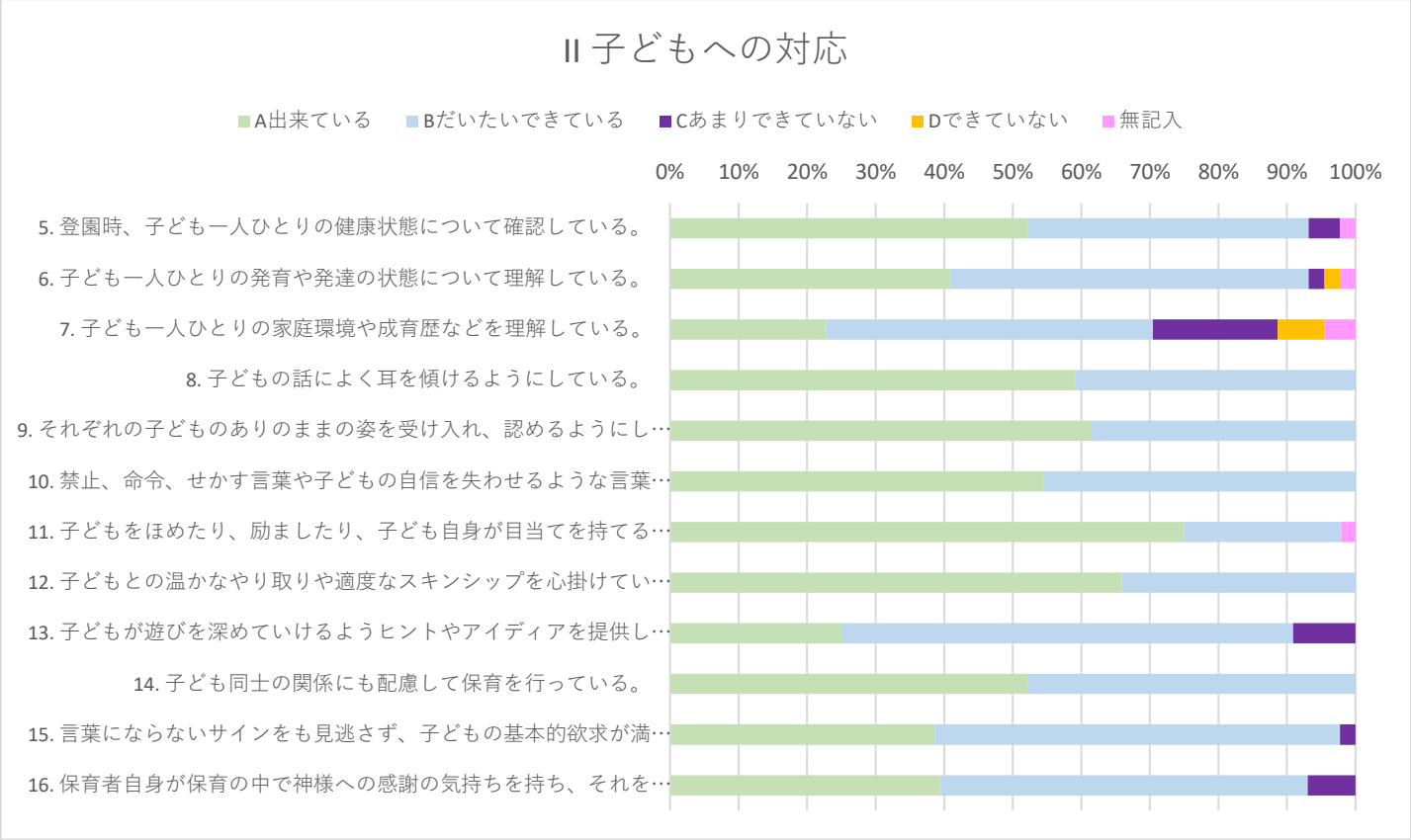
下記の項目について、教職員にアンケート調査を実施し、その結果を表にまとめ自己評価としました。  
また、その結果をもとに、園運営や教育活動の総括と来年度の改善に向けての課題等をまとめました。

I 保育の計画について



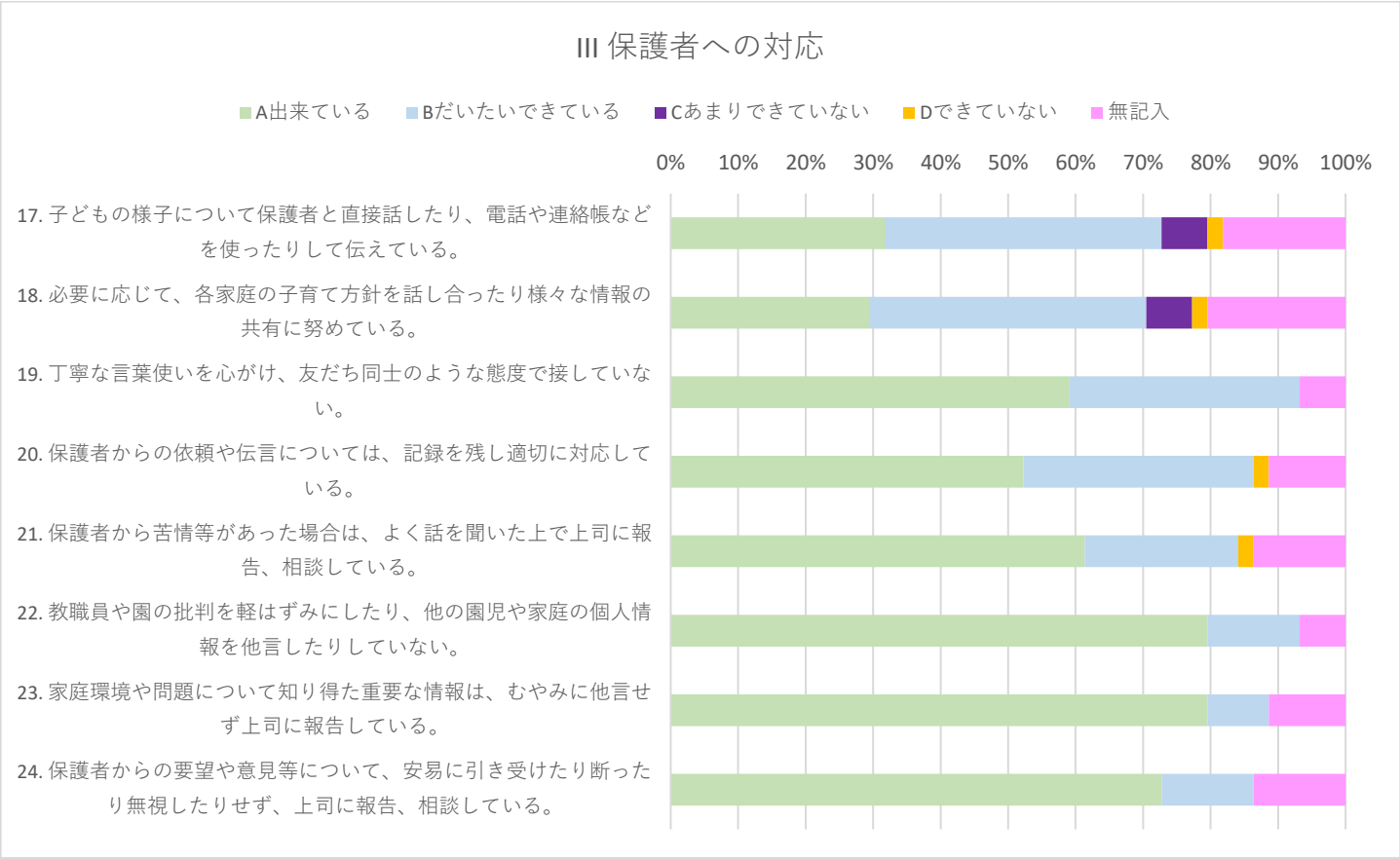
1	園の教育理念や教育方針を理解している。	A
2	園の教育方針に共感している。	A
3	指導計画に基づいて、子どもが主体的に関わりたくなるような環境構成をしている。	B
4	子どもが安全で心地よく過ごすことができる環境を心がけている。	A

II 子どもへの対応について



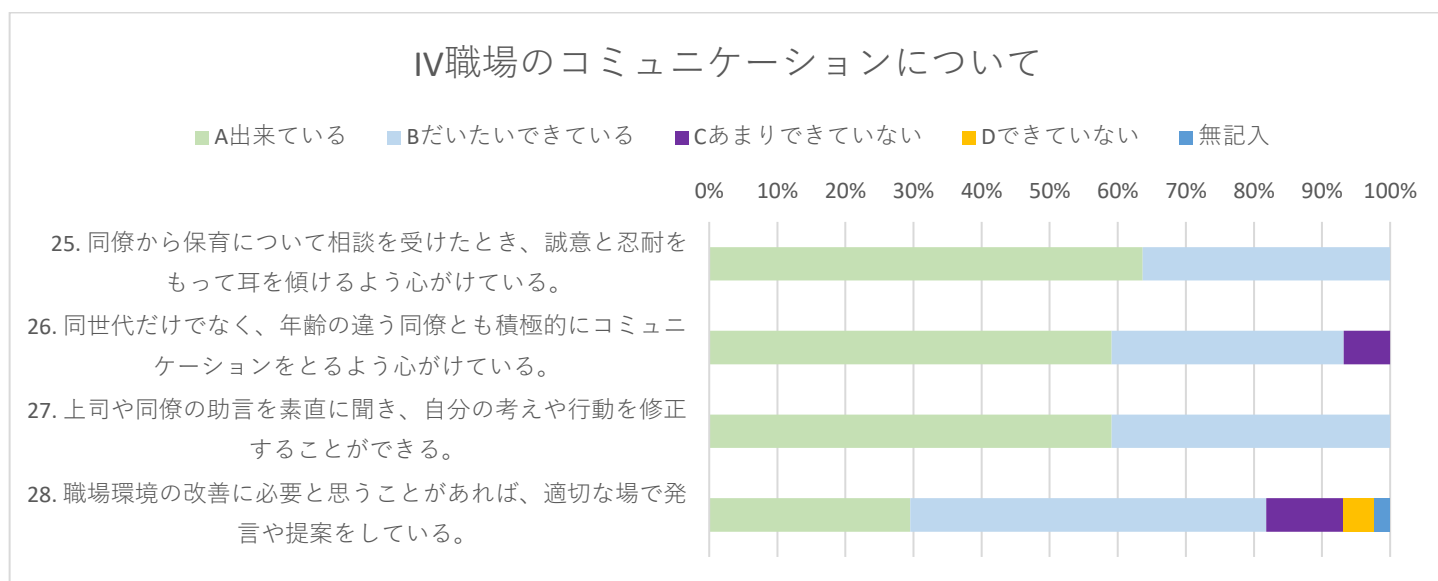
5	登園時、子ども一人ひとりの健康状態について確認している。	A
6	子ども一人ひとりの発育や発達の状態について理解している。	B
7	子ども一人ひとりの家庭環境や成育歴などを理解している。	B
8	子どもの話によく耳を傾けるようにしている。	A
9	それぞれの子どものありのままの姿を受け入れ、認めるようにしている。	A
10	禁止、命令、せかす言葉や子どもの自信を失わせるような言葉や態度にならないように心掛けている。	A
11	子どもをほめたり、励ましたり、子ども自身が目当てを持てるような言葉掛けを心掛けている。	A
12	子どもとの温かなやり取りや適度なスキンシップを心掛けている。	A
13	子どもが遊びを深めていけるようヒントやアイディアを提供している。	B
14	子ども同士の関係にも配慮して保育を行っている。	A
15	言葉にならないサインをも見逃さず、子どもの基本的欲求が満たされるようにできる限り配慮している。	B
16	保育者自身が保育の中で神様への感謝の気持ちを持ち、それをことばや態度で表現するよう心掛けている。	B

### Ⅲ保護者への対応について



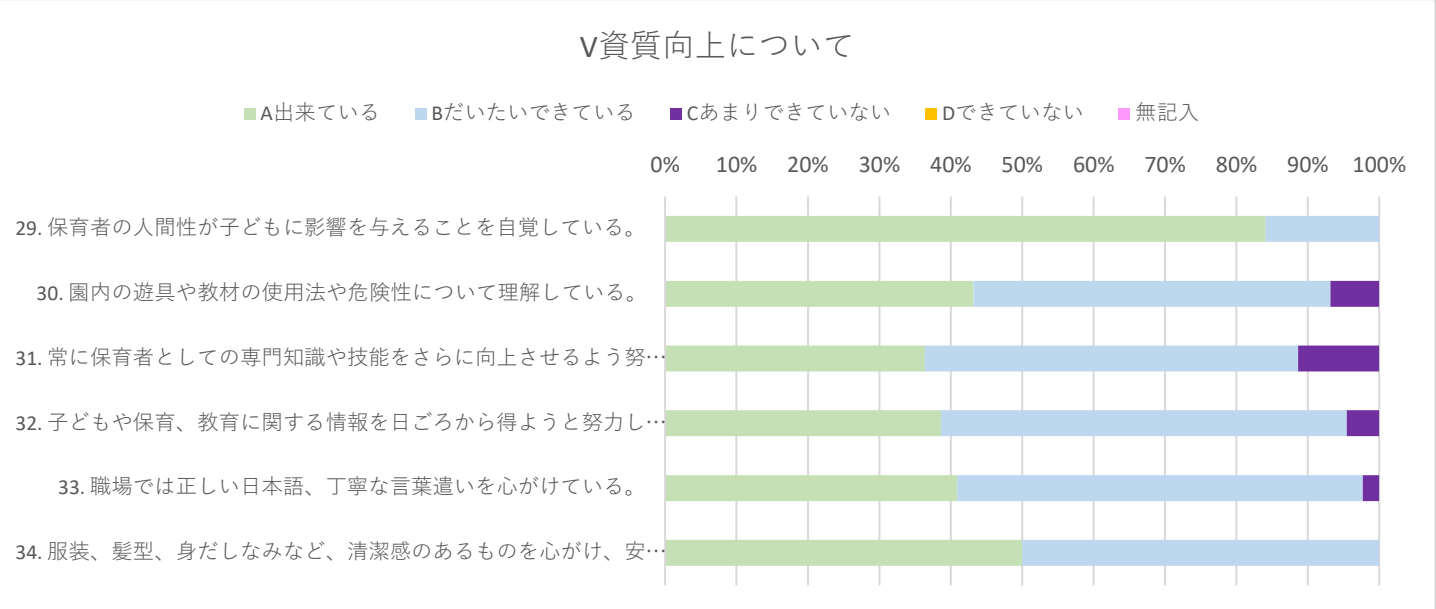
17	子どもの様子について保護者と直接話したり、電話や連絡帳などを使ったりして伝えている。	B
18	必要に応じて各家庭の子育て方針を話を聴いたり、様々な情報の共有に努めている。	B
19	丁寧な言葉使いを心がけ、友だち同士のような態度で接していない。	A
20	保護者からの依頼や伝言については、記録を残し適切に対応している。	A
21	保護者から苦情等があった場合は、よく話を聞いた上で上司に報告、相談している。	A
22	教職員や園の批判を軽はずみにしたり、他の園児や家庭の個人情報を他言したりしていない。	A
23	家庭環境や問題について知り得た重要な情報は、むやみに他言せず上司に報告している。	A
24	保護者からの要望や意見等について、安易に引き受けたり断ったり無視したりせず、上司に報告、相談している。	A

#### IV職場のコミュニケーションについて



25	同僚から保育について相談を受けたとき、誠意と忍耐をもって耳を傾けるよう心がけている。	A
26	同世代だけでなく、年齢の違う同僚とも積極的にコミュニケーションをとるよう心がけている。	A
27	上司や同僚の助言を素直に聞き、自分の考えや行動を修正することができる。	A
28	職場環境の改善に必要と思うことがあれば、適切な場で発言や提案をしている。	B

V 資質向上について



29	保育者の人間性が子どもに影響を与えることを自覚している。	A
30	園内の遊具や教材の使用法や危険性について理解している。	B
31	常に保育者としての専門知識や技能をさらに向上させるよう努めている。	B
32	子どもや保育、教育に関する情報を日ごろから得ようと努力している。	B
33	職場では正しい日本語、丁寧な言葉遣いを心がけている。	B
34	服装、髪型、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がけ、安全性にも気をつけている。	A

◎ 評価項目の達成状況と今後の課題

I 保育の計画について

達成している。  
教育理念や教育方針について教職員間で共通理解をし、安心安全で子ども主体の保育を実践している。

課題  
環境構成について、日々の子どもたちの姿から何が大切なのかを精査し、試行錯誤していく。

II 子どもへの対応について

概ね、達成している。  
キリスト教保育を実践し、子どものありのままの姿を受け入れ尊重していく保育を実践している。  
子どもの声を聴き、禁止用語や否定をしない保育を展開していく。

課題  
一人ひとりの発育や発達の理解を深め、子どもの家庭環境理解し配慮した関わりをしていく。

III 保護者への対応について

達成している。  
保護者の話をよく聴き、対応の難しい事柄は一人で対応しないで教務に報告し相談した上で対応している。

課題  
これからも保護者と対面で適切な対応が出来るように、教職員間で協力し合って対応していく。

IV 職場のコミュニケーションについて

達成している。  
互いの発言に耳を傾け、助言を素直に聞き入れ、より良い方向へ修正する事ができる。

課題  
さらに発言や提案がしやすくなるよう努力していく。

## V 資質向上について

概ね達成している。

子どもたちにとって環境の一部であることを自覚して、言動や身だしなみなどを整えている。

### 課題

今後も、専門知識や技能を向上させ、教育・保育情報の取得に努めていく。

## 4. 本年度の重点事業の評価

### ① 実践から学びを深め、保育・教育の質の向上につなげる

○外部講師2回と園の先生たちが企画し進行する4回の年間6回、園内研修会を行いました。

先生たち企画の会では、日々の実践を子ども理解や発達理論に結び付け考察などを行い、互いの保育観を共有し子どもとの生活に活かす姿がありました。これまでの外部講師との園内研修で培った力や先生たち一人ひとりの成長を感じる事ができました。保育・教育の現状を把握し学び合い、実践に取り入れていこうとする姿勢を先生たちには常に持っていてほしいと考えています。

○日本保育学会はオンラインで幼児教育実践学会は対面で行われ発表をしました。園内研修で子ども理解や実践研究から新たな視点を見出し、発表内容をまとめ、テーマにしてポスター発表を行う事ができました。当日、多くの方に意見をいただき、語り合うことができ、今後の子どもたちとの生活に活かしていきます。

○時間がかかりましたが、ホームページをリニューアルすることが出来ました。園内で行っているサロンやひろばの日時や内容、園内の子どもの姿や活動について発信する事が容易になりました。在園児はもちろんのこと、外部の方たちにも園のを知っていただける機会が増え、先生たちが自分の保育を振り返る機会ともなっています。

### ② 自然、木育を取り込んだ教育の推進

○大きな丸太を園庭に運び込んで木育活動をしました。子どもたちが木くずに触れたり嗅いだり、手で樹皮を剥いたり、大きなのこぎりを2人（年長）で挽く協同作業を行ったりしました。乳児や未就園児クラスではカンナ屑プールを楽しむ姿がありました。幼児クラスの子どもたちは、それぞれの力を試したり発揮したりする機会となり、年長クラスは協力するという事を体感できました。

○自然物（木の枝や実、花や葉、石など）を素材として園庭アトリエなど戸外で表現活動を楽しむ子どもたちの姿が増え、その表現も豊かになっています。園庭の自然を子どもたちが遊びや活動に取り入れやすい環境作りを進めています。保護者会の親睦や交流などの機会に自然物を使った活動を行い、保護者も自然木育を身近に感じて興味関心を持たれる方が増えています。

### ③ 主体性と創造性が育まれる園庭と室内環境の構築

○園庭の手作り遊具の経年劣化や子どもたちの興味関心、身体能力の向上を考慮し、新たな園庭環境造りをお父さんの会の保護者とともに改造していく事にしました。そのために近郊の先駆的環境の園に見学研修に行きました。本園に活かせる環境として新たに、ツリーハウスとロープワークのできる環境を構築しました。子どもたちが自ら関わりその手応えを感じていける環境の良さを活かしています。

○園庭の緑化として、中央の山裾に低木を植え、植物で仕切りを造りました。子どもたちが自然の中で遊ぶ事で自分から環境に働きかけ、変化する環境の中で意欲を培い、自ら課題を見出す力をつけることができました。

○室内環境は保育室の中に子どもたちの興味関心のあることを探求していけるような環境を整え、各保育室の前の協働スペースは子どもたちがその時に必要としている環境に造り変えています。子どもたちが飼育や栽培などを行う機会を増やしました。『いのちを育てる体験』を通して、自分も大切にされていることを感じる事が出来ました。

## 5. 本年度 研究・実践発表

- ・ 幼児教育実践学会でのポスター発表
- ・ 日本保育学会でポスター発表
- ・ 「0・1・2歳児 造形がはじまるとき」に本園の実践が掲載
- ・ 横浜市幼保小接続期研修 冊子に執筆
- ・ キリスト教保育誌 執筆